

「今村源 遅れるものの行方」展

Imamura Hajime: The Whereabouts of the Late



《ヒカリにかえるーヒト》2017、
ギャラリーノマル 大阪

【展覧会概要】

展覧会名：「今村源 遅れるものの行方」展

会 期：2023年11月3日（金・祝）～2024年1月28日（日）

開場時間：10:00～18:00（入場は17:30まで）

会 場：水戸芸術館現代美術ギャラリー、エントランスホール

休 館 日：月曜日（ただし、1月8日は開館）、12月27日（水）～1月3日（水）、1月9日（火）

12月9日（土）、10日（日）は近隣でG7大臣会合開催のため休館

入 場 料：一般900円、団体（20名以上）700円

高校生以下／70歳以上、障害者手帳などをお持ちの方と付き添いの方1名は無料

※年齢のわかる身分証明書などが必要です

●一年間有効フリーパス →「年間パス」2,000円

●学生とシニアのための特別割引デー「First Friday」

→ 学生証をお持ちの方と65歳～69歳の方は、毎月第1金曜日（11月3日、12月1日、1月5日）100円

※学生証、年齢のわかる身分証明書が必要です

主 催：公益財団法人水戸市芸術振興財団

助 成：芸術文化振興基金 

協 力：株式会社中川ケミカル、サントリーホールディングス株式会社

企 画：井関悠（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

【概 要】

現代美術家の今村源は、普段、気にも留めないありふれたものに、少しの隙間を加える、あるいは天地を入れ替えたり裏返したりすることで、ユーモラスな造形でありつつも、その軽く透明感のあるイメージから一転、日常と表裏一体にある深遠な世界を観る人に想起させる作風で広く知られています。ボール紙、発泡スチロール、石膏、針金やビニールなど、およそ彫刻らしからぬ軽い素材で、浮遊感溢れる「彫刻」を制作してきた今村の作品の根源には、彼が関心を寄せる森の地下に菌糸を張り巡らし、ときおり地上に姿を顕すキノコの世界があります。人間には見えない世界で、しかし確実に世界と共生し、世界を支えている菌類へと向けられた今村の思索は、私(個)を超えて連綿と続く生命の営みへと広がっていきました。本展は、1980年代前半より京都を拠点に制作活動をスタートさせ、いずれにも寄らない独自の哲学的作風で早くから注目を集めてきた現代美術家・今村源の10年ぶりとなる美術館の個展となります。

【今村源（いまむら・はじめ） 略歴】

1957年大阪生まれ、京都在住。81年に京都市立芸術大学美術学部彫刻科を卒業、83年に同大学大学院美術研究科彫刻専攻を修了。関西を中心に活動し、カラーワイヤーを使った平面作品や版画、針金で個々の彫刻がつながり合うインスタレーションなど、日常にあるありふれたものを用いて制作を行う。ユーモラスな形態をとりながら哲学的な作品は、日常と表裏一体にある深遠な世界を見せる。近年の個展に、「流れること／留めること」（ギャラリーノマル、大阪、2021年）、「パラパラパラ」（ARTZONE、京都、2018年）。

展覧会に、「疎密考」（和歌山県立近代美術館、2021年）、「TADのベスト版 コレクション+ あなたならどう見る？」（富山県美術館、2020年）、「起点としての80年代」（金沢21世紀美術館、2018年／高松市美術館、2018年／静岡市美術館、2019年）、「東アジア文化都市 2017 京都アジア回廊 現代美術展」（元離宮二条城／京都芸術センター、2017年）などがある。

第35回中原悌二郎賞優秀賞（2007年）、第28回京都美術文化賞（2015年）を受賞。作品は国立国際美術館、伊丹市立美術館、兵庫県立美術館、和歌山県立近代美術館などに収蔵されている。

【本展のポイント】

● 美術館では 10 年振り、関東初の個展

京都を拠点に活動する今村は、主に関西を中心に紹介されてきました。今村のいずれにも寄らない作家独自の哲学的作風で早くから注目を集め、美術関係者はもとより、多くの作家から支持を得てきました。本展は、2013年に静岡市美術館で開催された「Shizubi Project 3 - わた死としてのキノコ・今村源」以降、大きな展覧会10年振り、関東以北では初となる美術館での個展となります。過去作から本展に際し制作される最新作まで、60点近くの作品とともに今村の活動を紹介します。

● 当館エントランスホールに巨大なキノコが寄生

2019年夏、宮城県石巻市・牡鹿半島を中心に開催された「リボーン アート・フェスティバル 2019」にて今村が発表した巨大なキノコの彫刻作品《きせい・キノコ - 2019》が、当館エントランスホールに再び登場します。磯崎新が設計した当館に寄生する巨大なキノコをぜひご覧ください。

【関連企画】

■ 「今村源 遅れゆくものの行方」開幕記念アーティストトーク

出演：今村源（本展出品作家）
司会：井関悠（水戸芸術館現代美術ギャラリー主任学芸員）
日時：11月3日（金・祝）15:00～16:00（開場 30 分前）
会場：現代美術ギャラリーワークショップ室
定員：40 名 ※予約不要。先着順。
参加費：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。

■ ダンス&ライブパフォーマンス「場と動きと音のコラボレーション」

関西を拠点に国内外で活躍する動態ダンスの角正之と、大阪の現代美術画廊「Gallery Nomart」をホームとする即興音楽ユニット「.es ドットエス」の sara の二人が、今村の作品を舞台に共演します。
出演：角 正之（動態ダンス）、sara「.es ドットエス」（即興音楽ユニット）
日時：11月3日（金・祝）13:30～14:30
会場：現代美術ギャラリー
参加費：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。

角正之（すみ・まさゆき）

1946 年生まれ、神戸在住。Dance Camp Project 代表 / Ton Placer Kazemai プロデューサー。

1968 から 71 年にかけて前衛演劇「プレヒト演劇ゼミナール」での活動を経て、騙らぬカラダの沈黙に魅了されダンスを始める。

1989 年、「ヴォカリーズ」にて埼玉国際創作舞踊コンクール奨励賞受賞、1991 年、「水の夢」にて同コンクール最優秀賞受賞。

2000 年に始まる「舞打楽暦」は、日本の能楽小鼓方久田舜一郎と角正之による音と動きの即興ユニットとして第 15 番まで終了。世界各地で海外アーティストとの共同ワークショップを行う。

sara「.es ドットエス」

「.es ドットエス」は、2009 年に大阪の現代美術画廊「Gallery Nomart」をホームに結成された橋本孝之（alto sax, guitar）+ sara（piano, others）によるユニット。現代美術ディレクター林聡がプロデュース。結成当初より美術作家、ダンサー、詩人等とのコラボレーションを展開。即興、ノイズ、電子音楽、ジャズ、ロック、クラシックなど国内外の音楽家達とのコラボレーションによって生まれるボーダレスな世界―“音”と“音楽”の間（ま）で交錯する感覚を表現する。

■ 今村源とたずねる見えない世界のフィールドワーク

今村さんと一緒にきのこや植物、発酵食品の専門家をたずね、見えない世界に広がるネットワークについての知見を広げます。

日程：①11月18日（土） 茨城県きのこと博士館
②11月19日（日） 水戸市植物公園
③12月16日（土） だるま納豆、吉久保酒造

募集人数：各回15名（要事前申込）

参加費：各500円

※詳細は当館Webサイトをご覧ください

■ ワークショップ「キノコを作ってみよう」

今村さんと一緒に、身の回りにある材料と針金でキノコを作ります。見えない世界に広がるキノコの世界にそっと入り込む体験です。

日時：12月17日（日） 10:30～12:30／14:00～16:00

会場：現代美術ギャラリー

対象：小学生～大人（小学生1～2年生のご参加には保護者の付き添いをお願いいたします）

募集人数：各回15名（要事前申込）

参加費：500円 ※ただし、展覧会入場券が必要です。

■ 赤ちゃんと一緒に美術館散歩

館内係員やボランティアと一緒に展覧会をめぐるツアーです。

日時：11月12日（日）、11月15日（水） 各日10:30～12:00

会場：現代美術ギャラリー

対象：未就学児とその保護者

参加費：保護者のみ1500円（要事前申込）

※展覧会入場料を含みます。詳細は当館Webサイトをご覧ください。



■ 視覚に障害のある人との鑑賞ツアー「session!」

当館では2010年よりはじまった、全盲の美術鑑賞者・白鳥建二さんをナビゲーターに、見える人と見えない人が一緒に会話しながら展覧会を鑑賞するツアーです。

日時：12月3日（日） 10:00～12:00／14:30～16:30

会場：現代美術ギャラリー

参加費：1500円（要事前申込） ※展覧会入場料を含みます

※詳細は当館Webサイトをご覧ください



■ ウィークエンド・ギャラリートーク

市民ボランティア CAC ギャラリートーカーとともに展覧会を鑑賞します。

日時：11月18日（土）より毎週土曜日 各日14:30～40分程度

※ただし、他のプログラムとの関連で中止となる場合があります。

会場：現代美術ギャラリー

料金：無料 ※ただし、展覧会入場券が必要です。



【同時開催】

■ 日比野克彦「明後日朝顔プロジェクト2023水戸」収穫祭

2005年の個展「日比野克彦の一人万博」をきっかけに全国に広がった「明後日朝顔プロジェクト」を今年も開催しています。秋の種の収穫、春の苗植え、夏の開花という朝顔の育成を通して、人と人が出会い、地域と地域がゆるやかにつながっていくプロジェクトです。来年に向け、水戸での記憶のつまった種を収穫します。

日時：11月11日（土）10:00～17:00（小雨決行。荒天時翌日順延）

会場：広場回廊2階

料金：無料

主催：明後日朝顔プロジェクト水戸実行委員会、公益財団法人水戸市芸術振興財団、
株式会社水戸京成百貨店、水戸市民会館

協力：水戸21の会、茨城県立太子清流高等学校、サントリーホールディングス株式会社

■ 造形実験室

2022年9月より月替わりでさまざまな素材を使って造形を楽しむ2日間の「造形実験室」を開催しています。年齢を問わず、どなたでも参加できます。

日時：11月17日（金）、18日（土）、12月15日（金）、16日（土）、
2024年1月19日（金）、20日（土）
各日10:30～12:00／13:30～15:30

会場：現代美術ギャラリーワークショップ室

料金：無料 ※予約不要



【図 版】 展覧会広報用にデータを貸し出しますので、ご要望の方は鳥居までお問合せください。

1



2



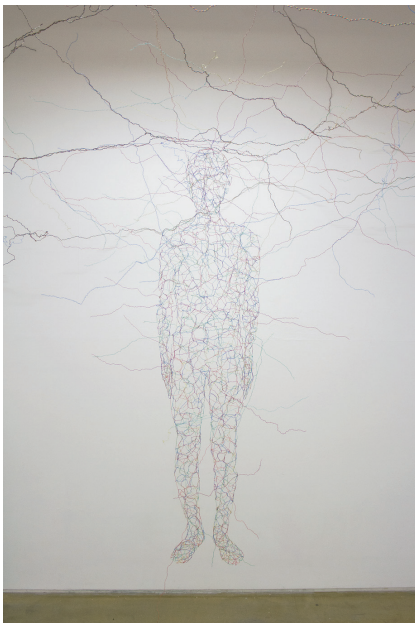
3



4



5



1. 《2002-11 イエ》、資生堂ギャラリー 東京、撮影：桜井ただひさ
2. 《流れること/留めること ver.Terra-S》2022、
京都精華大学ギャラリーTerra-S 京都、撮影：高野友実、
画像提供：京都精華大学ギャラリーTerra-S
3. 《きせい・キノコ》リポーンアート・フェスティバル 2019、牡鹿半島 宮城
4. 《1997-7》、宇都宮美術館 栃木
5. 《ヒカリにかえるーヒト》2017、ギャラリーノマル 大阪

プレス向け内覧会のお知らせ

2023 年 11 月 2 日（木） 14:00 ～ 15:30 受付開始 13:30

場所：水戸芸術館現代美術ギャラリー

出席者：今村源（出品作家）

井関悠（水戸芸術館現代美術センター主任学芸員）

【お問合せ】

水戸芸術館現代美術センター

〒310-0063 茨城県水戸市五軒町1-6-8 Tel.029-227-8120/Fax.029-227-8130 <https://www.arttowermito.or.jp/>

展覧会について：井関悠（主任学芸員）

教育プログラムについて：森山純子、中川佳洋（教育プログラムコーディネーター）

広報・写真貸出について：鳥居加織（広報） e-mail:cacpr@arttowermito.or.jp

* 詳細は公式X http://twitter.com/MITOGEL_Gallery でも配信いたします。

【記事掲載についてのお願い】

- 1) 掲載にあたっては、正式展覧会名称と会期の表記をおこなってください。
- 2) 写真を掲載する場合は、写真に添付してあるキャプション・クレジット等を正確に表記してください。
- 3) 誌面掲載する電話番号は、水戸芸術館代表番号029-227-8111でお願いいたします。
- 4) 掲載記事とVTRは、資料として保管いたしますので水戸芸術館現代美術センター鳥居までご送付ください。
- 5) 取材及び収録等の取材は、必ず事前にお問い合わせください。都合により取材に応じることができない場合がございます。

【交通のご案内】

【JR】 東京駅（品川、上野発もあり）から常磐線特急で約72分～84分、水戸駅下車。
北口バスターミナル4～7番のりばから「泉町1丁目」下車。徒歩2分。

【高速バス】 東京駅八重洲南口バスターミナルのりばから高速バス「みと号」水戸駅行き
（赤塚又は茨大ルート）で約100分、「泉町1丁目」下車、徒歩2分。

【お車】 常磐自動車道水戸ICから国道50号線を水戸市街地方面へ約20分。
◎市営五軒町駐車場があります。
地下駐車場（217台）7:00～23:00
立体駐車場（283台）24時間
料金：30分まで無料、1時間まで200円、以降30分ごとに100円 1日上限700円

【お知らせ】

今後のプレスリリースの発行を郵送からメルマガ配信へと移行します。配信を継続希望される方はメールアドレス・ご所属・ご氏名をcacpr@arttowermito.or.jp までご連絡いただくか、QRコードを読み込みの上、ご申請ください。

